

# みんなの健康ラジオ

『ロタウイルスワクチンについて』

(2020年10月22日放送)

横浜市小児科医会

川端こどもクリニック

川端 清

# ロタウイルスワクチン

- 令和2年10月からロタウイルスワクチンが赤ちゃんの定期予防接種に加わります。
- ロタウイルス胃腸炎は、「白色便性下痢症」とも呼ばれ、赤ちゃんのウイルス性胃腸炎の代表格です。

# ロタウイルス胃腸炎の症状

- 感染から1日～2日で発症し、発熱と共に激しい嘔吐と下痢を繰り返します。
- 重症化すると脱水症状などで点滴や入院治療が必要となることもあります。
- まれに神経合併症である脳炎や脳症を起こして後遺症を残すこともあります。発展途上国では多くの乳幼児がこの胃腸炎で死亡しています。
- 感染力が非常に強いため、しばしば家族にも感染します。

# 治療と予防

- ロタウイルスに対する抗ウイルス薬はなく、下痢、嘔吐、脱水、発熱に対する対症療法を行ないます。
- 脱水の予防のため、家庭での水分補給が大切です。
- 脱水になったら、軽症では経口補水療法。重症の場合は入院での点滴治療が必要となります。
- 平成23年から24年にかけて日本でも製造販売が承認されたロタウイルスワクチンの接種により感染の予防や軽症化が出来る様になりました。

# ワクチンは2種類ある

- ロタウイルスワクチンは飲み薬ですが2種類あります。
- 2回接種タイプのロタリックスと、3回接種タイプのロタテックです。
- 予防効果は同じですが、1回目と2回目以降で違う種類のワクチンを使用することはできません。
- ロタウイルスワクチンが広く接種される様になって、冬のこどもの胃腸炎での入院が減ってきています。

# 注意すべき副反応

- ロタウイルスワクチンを接種後に注意すべき副反応として腸重積症があります。
- 内服後3週間は、腸重積症の初期症状である不機嫌・嘔吐・血便に注意しましょう。
- 症状が見られたなら早めに病院を受診してください。